

科目名		授業形態	担当教員名	
言語発達障害Ⅰ（検査学）		講義・演習	平口 昌広	
時間数（単位数）		授業回数	年次	開講時期
30 時間（ 1 単位）		15 回	1 年次	後期
授業の目的・概要				
コミュニケーションや言語発達に問題を示す子どもへの働きかけの指針を得る上で、標準化された検査を用いることは必須である。子どものコミュニケーションや言語発達のみならず、そのベースとなる認知・視知覚・運動等を評価する検査について認識する。子どもの特性を捉える力を修得する。				
授業の到達目標				
各検査の目的や疑義を捉えることができる。また実施上の留意点を踏まえ、検査を取り解釈することができるようになる。子どもの特徴を捉える検査バッテリーの組み方を考え、検査から子どもの特徴を捉え能力を身に付ける。				
授業計画				
回	内容			
1	〈S-S法〉：説明・演習			
2	〈S-S法〉：演習			
3	〈S-S法〉：演習			
4	〈S-S法〉：解釈の仕方について概ね理解できる			
5	質問－応答関係検査：実施と概要を説明できる			
6	K-ABCⅡ 教育心理アセスメントバッテリー：説明・演習			
7	K-ABCⅡ 教育心理アセスメントバッテリー：演習			
8	K-ABCⅡ 教育心理アセスメントバッテリー：演習			
9	K-ABCⅡ 教育心理アセスメントバッテリー：解釈の仕方について概ね理解できる			
10	田中ビネーⅤについて理解できる			
11	DN-CASの実施方法を見て、概ね理解できる			
12	視知覚の検査・運動の検査（臨床観察）について概ね理解できる			
13	標準 読み書きスクリーニング検査（STRAW-R）について概ね理解できる			
14	LCスケール：演習			
15	LCスケール・（LCSA）：解釈の仕方について概ね理解できる			
成績の評価方法と基準				
種別	割合	評価基準・その他備考		
筆記試験	100%			
レポート・課題				
小テスト				
平常点				
その他				
自由記載				
教科書				
書名		著者・編集者名	出版社名	
標準言語聴覚障害学 言語発達障害学 第3版		玉井ふみ・深浦順一	医学書院	
最新 言語聴覚学講座 言語発達障害学		石坂郁代・水戸陽子	医歯薬出版株式会社	
自由記載				
参考文献				
書名		著者・編集者名	出版社名	
自由記載				
備考				
検査の実施に関しては、検査演習練習において習得を目指す。				